



“目に見えない” 金属にもご用心

稲城市保健センター

☎378-3421

夏場など汗をかいて、皮膚の様々な部分がかゆくなることがあると思います。

汗によるかゆみでもっとも多いのは、“あせも”で、これは汗腺から噴き出してきた汗が、皮膚の表面に貯まり、かゆみや赤みなどを引き起こすもので、発汗の多い乳幼児などに多く認められます。

汗は“塩水”ですので、それだけで皮膚の刺激になります。金属に触れると

腐食（錆び）が起きて、金属が溶けてくることがあります。金属は錆びると、イオンという“目に見えない”形になって水に溶けだします。古い水道管の水が、錆び臭くなるのは、溶けだした鉄イオンによるものです。装飾品や金具など、“目に見える”金属が、かゆい部分に接していれば、

「○○でかぶれた」と想像がつかますが、身の回りには“ピカピカ”していない金属がいろいろあります。例えば、一番アレルギーを起こす患者さんの多いニッケルは鉄の仲間なので酸化する（錆びる）と赤くなる性質があり、お化粧品の中の混ざっていることがあります。クロムは革をなめす時に使うので、革製品にはほとんど含まれてい

ます。コバルトは、セメントやビタミンB製剤にも含まれています。また、これらの金属はチョコレート、紅茶、ココア、香辛料、豆類、ナッツ類などの食品にも多く含まれ、イオンとして胃腸から吸収されて汗となって皮膚表面に出てきます。

金属アレルギーの検査は、パッチテストで判定します。この検査は一週間のうち3〜4回受診が必要となる、やや手間のかかる検査ですが、金属アレルギーの確定診断には必須です。汗をかく部分に治らないかゆみを伴う発疹がある場合は、お近くの皮膚科にご相談ください。

稲城市医師会

お杉 大畑

お杉 恵之